

同窓會報



〒610-1197 京都市西京区大枝杵掛町 13-6
京都市立芸術大学美術学部同窓会 象の会
発行人：同窓会会長 上村 淳之
TEL/FAX 075-334-2218
携帯 /090-7353-6999
http://www.kyogei-ob.jp
E-mail info@kyogei-ob.jp



2019年2月8日(金)～11日(月) メイン会場／京都市立芸術大学構内
環境デザイン専攻／元崇仁小学校(下京区)

京都市立芸術大学移転整備に向けた動き

2017年度から京都市や設計者と対話を重ねながら進めてきた新キャンパスの設計につきまして、京都市において「京都市立芸術大学及び京都市立銅駝美術工芸高等学校移転整備基本設計」がとりまとめられました。

基本設計では、京都のまちに受け継がれてきた、「通り」や「奥庭」、「軒下」などの空間要素を効果的に配置し、学部や専攻を超えた出会いによる創造的な活動が生まれ、市民や京都を訪れる人々が、まちを歩くように気軽に芸術に触れることができるキャンパスとしています。また、3つの地区に分かれたキャンパスに、東山や鴨川などと調和する連続的な屋根や、水平に広がる大きな床により「つながり」をつくり、京都の玄関口・京都駅と東山の文化ゾーンを結ぶ新たな拠点となるようデザインしています。

主な施設として、京都駅側の地区(C地区)には、音楽ホール兼講堂やギャラリー@KCUA、図書館・芸術資料館、中間の地区(B地区)には、食堂、鴨川沿いの地区(A地区)には、グラウンドや体育館、共有工房を配置します。美術学部はA・B・C地区、音楽学部はC地区に配置します。

今後、2020年3月までに実施設計を完了し、2020～2023年にかけて建設工事を行い、2023年度に新キャンパスの供用を開始する予定です。(総務広報課)

【新キャンパスの概要】



【デザインイメージ】

＜塩小路高倉の角から望む＞



Head line

京都市立芸術大学移転整備に向けた動き	1	退任にあたって	8
2018年度同窓会展の案内	2	象の会・いろいろあわせ③	9
2019年度 同窓会展 =作品公募=	3	第5回芸大祭模擬店「象の店」繁盛記	9
旧今熊野校舎跡と移転先崇仁地域見学ツアーの報告	3	会員展覧会	10
同窓生だより【部活／記憶の彼方】④山岳部	4	学内消息(資料)	11
研究室だより 染織研究室	6	事務局だより	12
漆工研究室	7	編集後記	12



<鴨川より望む>

2018年度同窓会展の案内

沓掛時代－1990年代後半の平面作品を中心に

本展では、本学美術学部同窓会員の作品により1950年代から順に、20世紀後半の美術学部の歩みを辿ってきた展覧会企画の最終回として、1990年代後半の平面作品を中心に紹介します。加えて、本学の有する芸術資源をもとに沓掛キャンパスへの移転前後の活動を探る「アーカイバル・プラクティス・ラボ」の一環として修復を進めてきた松井紫朗《FLOWER VASE》

2019年2月16日(土)～3月3日(日) <月曜休館> 入場無料
11:00～19:00(最終入場は18:30まで)
京都市立芸術大学ギャラリー@KCUA
・ギャラリートーク 2019年2月16日(土) 14:00～15:30
・オープニングレセプション 同日 16:00～

(芸術資料館収蔵品)を展示します。

なお、次年度からは各専攻に焦点を当てた新しい展覧会シリーズを開催予定です。

【出品作品】

松井紫郎	(1986 年大学院美術研究科彫刻専攻修了)	《FLOWER VASE》	(1986) *
森下希和子	(1992 年大学院美術研究科絵画専攻修了 (日本画))	《ビルマの土》	(1991)
野村陽子	(1999 年大学院美術研究科絵画専攻修了 (日本画))	《わたしのはなし》	(1997) *
長尾朋子	(1998 年大学院美術研究科絵画専攻修了 (油画))	《10・01 の地図》	(1998) *
長谷川誠子	(1999 年美術学部美術科日本画専攻卒業)	《ハゲワシ》	(1997)
丸橋加奈子	(1999 年美術学部デザイン科ビジュアルデザイン専攻卒業)	《未来を奏でる素晴らしい情熱》	(1999) *
堀部恵美子	(1999 年大学院美術研究科絵画専攻修了 (版画))	《イミテーションとエンハンスメント》	(1999) *
三浦洋子	(2000 年大学院美術研究科絵画専攻修了 (油画))	《遠くの眠り》	(2000) *
中村七海	(2017 年大学院美術研究科博士後期課程絵画専攻日本画領域修了)	《樹閑》	(2000) *
米増由香	(2000 年美術学部美術科版画専攻卒業)	《ぬばたまの闇》	(2000) *
三宅砂織	(2000 年大学院美術研究科絵画専攻修了 (版画))	《水たまり》	(2000) *
松本 尚	(2000 年大学院美術研究科デザイン専攻修了)	《“THE NUCLEAR AGE” ポスター原画》	(2000) *

(* は本学芸術資料館収蔵品)

2019 年度 同窓会展 = 作品公募 = 漆工(塗装)専攻の今熊野時代・沓掛時代を振り返る(仮)

崇仁地域への移転を控えて、今熊野学舎・沓掛学舎時代の漆工(塗装)専攻の教育やその成果を漆工(塗装)卒業生・修了生から応募のあった当時の作品と京都市立芸術大学芸術資料館収蔵作品を中心に検証するコンセプトで2019年度の同窓会展を開催致します。

現在、同窓会展の準備として漆工研究室の教員と美術研究科(漆工)の学生が協力して芸術資料館に収蔵されている卒業・修了作品の調査を行なっています。沓掛時代に学んだ現役教員にとっても今熊野時代の作品の数々は大変、興味深いものです。現役の学生

【トークイベント】

日時：2019年11月23日(土)14:00～16:00(予定)

2019年11月9日(土)～24日(日) <月曜休館> 入場無料
11:00～19:00(最終入場は18:30まで)
京都市立芸術大学ギャラリー@KCUA

達は、先輩方の作品をワクワクしながら調査を進めています。

卒業生・修了生の皆様の応募を楽しみにしています。

ご協力、宜しくお願い致します。(漆工研究室)



<作品公募>

公募対象：① 同窓会象の会の正会員としての義務(会費納入)を果たしている会員及び特別会員。

② ①の中で今熊野・沓掛学舎時代に漆工(塗装)専攻に在学され、学生時代に制作された作品を準備できる会員。

公募作品：今熊野・沓掛学舎時代に制作された漆工(木工も含む)作品。サイズは展示可能な範囲。

既発表作品も可とします。

当該作品が大学芸術資料館で所蔵されている場合は、その作品で応募・展示することができます。

公募期間：2019年2月1日(金)～4月30日(火)まで。

応募方法：応募を希望される会員は、電話、郵便、FAX、メー

ルなどで公募期間内に同窓会事務局まで連絡下さい。折り返し応募用紙を送りますので記入いただき返送ください。(応募者が少なく展覧会の開催に支障をきたす場合は、主催者の判断で別途出品を依頼する場合があります)

出品料：無料(作品の搬出入に要する費用は出品者でご負担ください)

その他：展覧会のDMは主催者で用意し事前に出品者へお渡しします。

搬出入など詳細は、出品が決まった時点で連絡します。

問合せ：美術学部同窓会象の会事務局
担当/開本恭子(090-7353-6999)

旧今熊野校舎跡と移転先崇仁地域見学ツアーの報告

同窓会は、2018年11月4日の午後、今熊野の美大旧校舎と移転先崇仁地域の見学ツアーを開催しました。

旧校舎は、京阪七条を東に行った智積院というお寺の中にあります。当日は20人強のOB/OGが参加くださいました。

代表幹事(野崎)から旧美大の説明を聞いて、智積院の中に入ると、旧校舎が見えてきます。丸池などは、すでに埋め立てられていましたが、校舎自体はまだ残っており、智積院が事務所として使用されているとのことでした。内部には、所々にふとした彫刻などが施され、とても趣があります。旧校舎の前で記念撮影をしたのち、彫刻科のあった裏手の「丘の上」まで散策しました。山手から見下ろす校舎も、とても美しかったです。

旧校舎を後に鴨川に向かって塩小路通を下ります。川を超えると直ぐに元崇仁小学校北門で、淀野副理事長が待っていて下さいました。教室に案内され、大学移転基本設計の内容について完成予想図を見ながら淀野さんの説明を聞きました。後、塩小路以南で鴨川西岸から高倉通に囲まれる崇仁地域の現場を見て歩きました。すでに転居用の市営住宅建設工事が進み、2019年春には転居が始まるとのこと。撤去される市営住宅は今も居住者がおられますが空部屋が多いと聞きました。高倉通角には、

地域活性を目的に「崇仁新町」と称する屋台街が出来ていて、移転工事が始まるまでの間にぎわいを演出しています。

夕方4時前、ここで自由解散とし、希望者は大学の芸大祭に向かいました。(徳永、野崎)



山岳部



田中賢治(1970年染織専攻卒業)

この世のあらゆるものごとには陰と日向がある。楽しかったことばかりが思い出される山岳部の活動も、いまさらどうしようもない、無念さだとか後悔だとか、ときおり蘇ることもある。

本稿の依頼があったとき、昔やらかした数々の失敗や陰の部分をほじくり返すのはもう勘弁してほしい、という気持ちだった。しかし今はない山岳部の記憶を留める、最後の機会だとも考えた。

以下、随所に私見の入り混じった身内ネタの報告になる恐れを顧みず、何を目指しているのかも見定めないうまま、闇雲にあがいていたころの話を記しておきたい。仲間たちには、偏見と欠落に満ちたものだと批判もあるだろうけれども、その点は前もって許しを乞う。なお登場する部員名は旧姓とし、敬称は失礼ながら省略する。

創部発起のころ～女子部員騒動(1966、以下西暦年は年度を指す)

1966年の秋ごろ、須川武博(染4)と野崎邦雄(洋3)とでまず設立発起の話し合いがなされた。2人とも学生自治会の役員経験者で、須川はスキー技術とその教程にも通じ、一方野崎は高校山岳部に在籍し岩登り経験もあった。この2人が後々の部活動に色濃く影響を与えたのは当然のなり行きだった。彼らが創立部員としてまず目をつけたのが当時染織専攻の山仲間であった中川正久(染2)と田中賢治(染1)。しかしその裏で、須川が腹に一物を秘めて部員勧誘を進めていたことを、のちに野崎、田中らは知る。

その内容とは女子部員を参加させること。当時周りから「女金太郎」との異名があった、原愛(染2)がその人物だった。当然野崎、田中は反対するが、人事能力では一枚上手の須川の手にかかって、野崎は早々陥落し、田中もしどろしどろ認めるほかなかった。

そして、そういう空気が原に伝わらないはずもなく、けっして前向きとはいえない奇妙な緊張感が部にもたらされることになる。

まだウーマンリブという言葉は存在しない時代の話。



1967 剣岳夏山合宿 左から原、前出、田中、佐々木、野崎、中村(写真：野崎)

訓練山行から、初「春山合宿」へ(1966冬～春)

設立発起人からは勧誘と時を同じく、冬から春への山行計画も提示された。春山は加賀白山が最終目標。ルートは加賀白山南方稜線。加越国境稜線から三の峰、別山を越え、雪洞キャンプを進めながら白山頂上を陥れる、というものだった。このため、2月に伊吹山で訓練山行を行うという。初合宿に日本有数の豪雪の山を選ぶのは、いくらなんでも無茶ではないですか？。あまつさえ、1963年正月の愛知大薬師岳大量遭難の記憶もなまなましい時代背景があった。

と言って装備は万全だったのかというと、赤貧洗うが如き新設山岳部にそれは無理だった。共同装備に冬山テントすらなかったし、服はどうするのかと聞けば、古い学生ズボンを二枚重ねで着とけば死なへんやろ、という始末だった。ことほど左様、他の装備は推して知るべし。ただし山屋の魂たるべき、高価な門田のピッケルとアイゼンだけは、親を騙し画材費を流用して、辛うじて確保した。

そうこうするうち、2月の伊吹訓練山行が実施された。雪山に慣れる、がテーマだったが、冬テントのない部にとって主たる目的は雪洞の構築訓練だった。山行後は、少しはいわれのない「自信」も湧いてきて、年度末制作終了後、勇躍雪の加賀白山へ向かった。メンバーは、須川、野崎、中川、原、田中の5名



1968 伊吹山訓練山行 前から原、前出、中村

山岳部の発足(1967)

この年の白山は天候不順で、氷雨降るなか、濡れ鼠で上の小池へ逃げ帰った。登頂は果たせなかったけれど、最も印象に残ったのは、女子部員、原の姿勢だった。「おまえらへナチョコ男どもには負けるもんか」というオーラがひしひし伝わってきた。

年度が改まり、須川、野崎の尽力により正式に山岳部設立が学内で認められ、部室やお涙ほどの給付金も獲得できることとなった。また、部長には日本画科の奥村厚一教授に引き受けていただく事も決まった。教授には部員は随分可愛がってもらい、美味しいものをたらふく食べる宴会も開いていただいたし、高価な特注冬山テント、アメーバ号もご寄贈戴き、その後の冬山合宿実施上の強力なツールとなった。奥村教授退官後は、染織専攻、中村彦之先生に後継部長をお願いした。両部長とも、交流山行が計画されていたが、いづれの山行も実現しなかったのは申し訳なく、心のこりであった。

新人勧誘も積極的に行い、時期に多少のズレはあるが、中村敏幸(洋1)杉本剛(洋2)前出光江(洋3)黒光茂明(日2)佐々木淳(デ1)吉本忍(染1)木場道雄(日)らが加入した。それら有象無象の個人主義者たちのなかで、体育会系基準で頭ひとつ抜け出していたのは中村一人だった。

このような体制で本来の部活動が開始されたが、最も記憶に残るのは夏剣岳定着の岩雪合宿で、以後の合宿に永く受け継がれた。

同人ユングフラウ 西アジア女性登山隊からの誘い(1967)

この年のトピックで、もう一つ忘れられない事がある。原が同人ユングフラウ代表、佐藤京子から遠征隊への勧誘を受けたことだ。原の登攀能力を認めた野崎から、京都工繊大山岳部OG佐藤へ情報が伝わっていたからだ。しかし、参加準備金30万円を原は調達不可能と判断し、話は流れてしまった。今にして思えば、部組織が準備金集めのサポートができるまでに熟していれば、部のありようは現状とは大きく異なるものとなっていただろう。1968夏にイストルオナール峰7403m登頂を日本人女性として果たした佐藤は、その後マナスル女性隊総指揮として、女性のみによるヒマラヤ8000m峰登頂をなし遂げた。このことは、女性の世界登山史上初の快挙だった。

その後の女子部員のこと(1968～1977) 以下リーダーはLと略記

原が主メンバーから退いたあとも、女子部員の参加は少なからず続いた。岩村順子(染)、山本順子(デ)らが記憶に残る。しかし、リーダー的な役割が苦手な、原が彼女らのケアをする機会はなかった。Lが白川哲治(デ)から金田恭明(陶)に渡る1971ころ、彼らのバランスの取れた部運営のおかげなのかどうか、女子部員加入の

第2期が訪ずれる。中丸きぬえ(染)、佐治明美(染)、梶なな子(陶)、池田知嘉子(日)らがいたが、金田の面倒見の良さにもかかわらず、翌年夏合宿事故の影響もあって、活動は自然消滅。その後、松岡史郎(デ) Lの1975、大河内久子(陶)柴田和子(塗)高尾順子(日)らによる自主山行が試みられたが、残念ながらあとが続くことはなかった。

歴代リーダー(年度、氏名、主な実績)(1966~1983)

リーダーを経験したことのある者にしかわからないことがある、と田中は思う。それは合宿実施時にのしかかる重圧。常に部員とともにある縦走形式の場合は各部員に目が届くのでまだしも、隊が分散する、劔岳定着の岩登り合宿の場合は、実施前には不安で夜もろくに寝られないほどになった。先輩たちの苦勞に、その時はじめて気付かされたのである。そういう意味で、10数年間の部活動が死亡事故なく終えられたことは、幸運に恵まれた結果とはいえ、心からありがたいことだったと思うのだ。しかし、1972金田 L時の前劔滑落事故による合宿全面中止、1969中村 L時の連日の悪天によるほとんど登攀不可に終わった劔合宿はとりわけ不運であった。これに加え、部員減少による部終活時、1983大西治(彫)の各 Lの抱えた困難について、とくに厚くねぎらいの気持ちを表しておきたい。

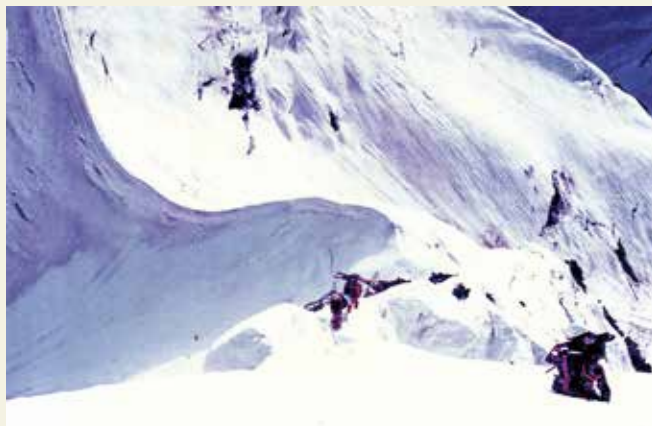
下表中、各合宿留守本部には、OB会野崎がその任にあたってくれた。また、後半の部活動は、OBとの合同山行が数多く実施された。これによって現役たちは、不安感を和らげることができたと思う。合同山行のほとんどは、中村敏幸の仲立ちによるものであった。

- 1966 須川武博、野崎邦雄 部発起、加賀白山春山合宿(撤退)
- 1967 須川武博 創部 黒部源流定着沢合宿、奥越スキー合宿
- 野崎邦雄 創部 劔岳定着岩登夏合宿、奥越スキー合宿
- 中川正久 加賀白山春山合宿(登頂)
- 1968 田中賢治 劔夏山合宿、南ア北部鋸冬合宿、南ア春縦走合宿
- 1969 中村敏幸 劔夏山合宿、北ア笠ヶ岳第二尾根ほか春山
- 1970 白川哲治 南ア南部赤石~荒川岳縦走冬合宿
- 1971 白川、金田恭明 北ア笠ヶ岳穴毛夏合宿、南ア塩見岳冬合宿
- 1972 金田、吉田裕 劔夏山合宿、文登研劔研修、南ア聖岳冬合宿(OB合同)
- 1973 吉田、久保木真人 黒部源流夏合宿、南ア北部冬合宿
- 1974 久保木真人 打込谷~黒部夏合宿、アフガンヒンドゥクシュ遠征
*ヒンドゥクシュ遠征時、現役久保木へOB会の支援に感謝
- 1975 松岡史郎 劔夏山合宿、南ア仙丈岳西面冬合宿(OB合同)



1975 冬山 仙丈岳西面三軒岩小屋沢中央ルンゼ (後から吉田,中村,白川)

- 1976 長谷川吉雄 劔夏山合宿、聖岳秋山合宿、聖赤石冬合宿
- 1977 長谷川? 白馬連休OB合同合宿、奥美濃冬合宿



1977 白馬岳主稜最後のピッチ 人物は吉田、柴田和のはずだが、誰が誰やら?

- 1978 伊藤 満? 合宿データ不明
- 1979 中西洋一? 合宿データ不明
- 1980 不明 合宿データ不明
- 1981 平野年紀 後立縦走~劔定着夏山合宿 南仙丈岳西面冬合宿
(OB合同)*1975と本年度仙丈岳冬合宿で冬期三軒岩小屋沢全
沢廻行達成
- 1982 大西 治 金木戸川双六谷廻行夏合宿、仙丈岳沢廻行冬合宿
(OB合同)
- 1983 大西 治 南仙丈岳西面冬合宿 本山行をもって山岳部活動終了

*最後の部員は、大西、および吹田哲二郎(彫1)の2名。学生数が極端に少ない本学で、ここまで活動を維持してくれた後輩たちのことを誇りに思う。



1982 冬山仙丈岳西面岳沢ソーメン流しの滝を登る大西 OB合同最後の山行

いま、こうして時の流れに晒された昔をふりかえって思う。

藪山や泥にまみれた岩場を這い回り、何日間も風呂にも入らず、凍える手でテントポールを握りしめ、煤だらけのおにぎりを頬張って空腹にたえたりと、そんな生活があればこそ、真っ白な雪の頂上はこよなく美しく、みんなでそれを目指したのだ。そんな宝石のような時間を共にできた私たちは、この世の誰よりも幸せ者だったのだと。

部員を代表してこの一文を、心ならずも病を得て早逝した中村敏幸に捧げる。今日の前に君がいたら、これを読んで、「こんなお前の一人よがりや」と昔のように目だまをぐりぐりさせて私に怒るのだろうね。

染織研究室

三橋 遵

工芸科染織研究室 教授

現在染織研究室のメンバーは、織の藤野靖子、型染の日下部雅生、染系テキスタイルの藤井良子、特任教授で素材系テキスタイルの野田涼美、ろう染・染造形系のわたしの5名の専任教員で運営しています。そして、以前とは大きく変わったのが、特任制度の導入にあわせて、研究室教務補助員と技術指導員の2名が加わり、教務上の事務的なこと、材料などの発注、管理、機器類の管理などを担っていただけるようになったことです。制作室も以前に比べて随分と整理整頓され、制作しやすい環境になりつつあります。昨今、移転などたくさんの課題を大学が抱えることになり、そのための業務や会議などが増えたこともあり、毎日が慌ただしく過ぎていく中で、学生と向き合える時間が少しでも多くとれるようになってきたことは、大変よいことだと思っています。



オープンキャンパス

カリキュラムに関しては、2回生で染織基礎実技を1年間を通して行い、

型染、ろう染、織、シルクスクリーンプリント、素材体験、染色実験など染織で表現するための基礎的なスキルを身につけます。以前の染と織という専攻内のコース立てを、昨年度から染、織に加えて、新たにテキスタイルというコースをつくりました。3回生になって学生はそれぞれコースを選択します。染は従来の型染、ろう染を基本に、本学卒業生の羽田登喜先生に非常勤で来ていただき、友禅染め基礎を学び、3回生の前期に着物を染めます。織でも3回生前期に絹を使って着物を織ります。テキスタイルでは、3回生前期に基礎的なコスチュームの勉強をしつつ、様々な素材体験とニッティングやプリントなどの技法研究をもとに服をつくります。そして、前期の締めくくりとして、3回生の「着るもの展」でその成果を確認します。学生は服やファッションに高い関心があり、テキスタイルコースはなかなかの人気です。

大学院には、アフリカのコンゴ、台湾、中国、韓国、イギリスなど多くの留学生がきており、国際色豊かで、時々各国の料理を囲んで楽しくコミュニケーションをとっているようで、廊下にはふしぎな香りが漂う時もしばしばです。



廊下 de カフェ

昨年度から特任教授として野田涼美先生に来ていただいたことで、新たなテキスタイルの側面を見つけたり、様々な染織の現場に行ったり、学生作品にも少し変化も見え、ポップで明るいもの、完成度の上がった仕事も増えてきたように思います。

課題以外にもいくつかの新しい動きもあります。ひとつは、3美大染織専攻の合同展です。東京芸大、金沢美大そして我が校の染

織専攻の交流展です。5年ほど前から、最初は金沢美大とうちの大学で始めたのですが、2回目から東京芸大が加わりました。開催場所は毎年回り持ちで、今年度は京都芸大が担当で、ギャラリー@KCUAで開催し、好評を得ました。学生にもよい刺激となり、普段とは見違えるようなギャラリートークだったり、ホスト校としてしっかり他校のお迎えもできました。なかなか他校との学生、教員の交流も持ててなかったことを思えば、準備など、大変な部分もありますが、とても良い機会ではないかと思っています。来年度は金沢での開催となります。



三美大合同展

もうひとつは、今年から京都市美術館が改修工事で使えなくなったことから、作品展を学内で開催したことです。ご存知の通り京都芸大は洛西の地に移転してきてはや40年近く経ち、老朽化が著しく、正直この制作室が果たして展示会場になるのだろうか？と不安でいっぱいでした。しかし、学生たちが展示プランをかなり前から相談し、製作期間の調整、掃除、会場のしつらえなどを工夫しながら進め、それなりの雰囲気のある、京芸らしい展示になりました。美術館での展示よりも場所を意識した作品展示ができたのではと思っています。見に来て頂いた方からは、美術館よりも良かったんじゃないという声もいただきました。



作品展学内展示



この他にも、新道牧人先生による藍染めのワークショップ。丹後の機屋を訪ねる「織たび丹後」。染め、織り、プリント等の工場見学などにも行きました。

近年、多様な染織の表現や社会との繋がりが京都芸大にも求められてきている現状があり、卒業後も様々な分野に飛び立ち活躍しています。しかし、彼らは京都芸大だから育った人材でもあります。染めること、織ることの本質を見失うことの無いように今後も頑張っていこうと考えています。



織たび丹後

漆工研究室

安井 友幸

漆工研究室 准教授

漆工研究室では、学生の時だからこそできるチャレンジの精神を大切に、自由な発想のもと、漆芸や木工における制作を中心とした研究活動を行っています。近年、漆工専攻は工芸科1学年30名中、10名を超える希望人数があり、大学院も含めると常に40名以上の在籍人数となり、人気のある専攻となっています。大人数のため漆工棟だけでは十分な授業が行えず、隣の旧音楽高校の校舎を借りて授業を行っています。

2回生の漆工基礎では曜日ごとにデッサンを含め、漆芸や木工における基礎的な授業をしています。1年間の成果が2月に行われる作品展において一堂に展示され、その点数の多さには目を見張ります。3回生以上は自由制作となりますが、学生に対し全教員が一同にチュートリアルを行い、作品のコンセプトや作品の材料・技法・展示方法などを聞きとりアドバイスを行います。担当教員のみならず、研究室全体で作品の方向性などを共有することで、多角的な見地から素早い対応ができるようにと考えています。

10年前より、毎年5月初旬から6月にかけて、石川県輪島漆芸美術館にて全国の漆芸コースのある大学の主に卒業・修了作品を一堂に見ることのできる展覧会が開催されており、大学として参加しています。そのギャラリートークとシンポジウムの日程に合わせて毎年輪島へ研修旅行に行っています。研修旅行は主に漆工基礎(2回生)中心の参加ですが、漆を学び始めの学生にとって、漆芸の町である輪島を通して、これから学ぶ漆芸への憧れや想いが強くなり、良い刺激となっています。また、そこで毎年全国の漆芸コースのある大学の教員も集まることで、大学間や漆芸産地との繋がりも強くなり、良い相乗効果を生んでいるように思います。



輪島研修旅行



また、ここ4年に亘り、福島県会津若松市で行われている、「真夏の漆塾」には全国の漆を学ぶ大学生が有志で参加しています。毎年京都からもたくさんの参加があり、会津塗りの工房や漆林の見学、産地の独特な技法の講座があります。今年は「鉄錆絵^{てつさびえ}」でしたが、普段見慣れない技法に熱心に取り組んでいる様子でした。



真夏の漆塾 鉄錆絵講座

各教員の取組として、大学の特別研究助成金制度を活用し、2017年にこどもうるし生活プロジェクトを私、安井と大矢先生で立ち上げました。「こどもとうるしをつなぐ」をテーマに有志の学生と共に活動しています。2018年度は4月から週一回のミーティングを持ち、夏休みも利用して漆で遊ぶ玩具として、漆塗りのすべり台の「うるしやまのぼるくん」と漆のコマ崩しパズル「T-3」を制作しました。これは10月～11月初旬に開催された、あいづまちなかアートプロジェクト「さわろう!遊ぼう!うるしで育むこどもの世界」に出品し、こどもたちが漆に触れ合うきっかけづくりを試みました。



うるしやまのぼるくん制作風景

あいづまちなかアートプロジェクト
会場風景

その他、外部から積極的に講師を招き漆芸の技法や素材についての実習講座を開催しています。

2018年度は金工実習に始まり、輪島から講師を招き沈金実習、京都や滋賀を中心に活動する漆芸家を招き螺鈿と蒔絵の実習を行いました。



沈金実習作品

このように研究室では様々なプログラムを用意し、学生と共に漆芸や木工の制作を通じて、社会に繋がることを意識し活動しています。近年は卒業・修了後も漆芸家や木工家として活動する卒業生も多くおり、こどもアトリエや金継教室、漆芸・木工のワークショップを開催する卒業生も増えてきています。就職先においても漆を使った商品開発に期待を寄せられており、今後どのように漆が使われていくのかが楽しみです。学生にとって大学は一つの通過点でしかありませんが、仲間と共に学んだことを大切にこれからもモノづくりの楽しさや漆の良さを伝えて欲しいと願っています。

退任にあたって

陶磁器研究室 教授 秋山 陽



京都芸大について何も知らないまま、入学を許され京都へやってきたのは1972年のことでした。慣れない関西弁や学生達の大人びた雰囲気になんか気後れしながらのスタートでしたが、多くの幸運な出会いに恵まれ、自らの拙い制作のずっと先に心ときめく豊饒な世界を見るようになっていました。特に、陶磁器専攻に八木一夫先生がいらしたことは私にとって決定的でした。先生のにこやかに放たれる独特な言葉は、物事の核心を突く鋭さを帯びながら、硬直した思考をしなやかに開放してくれると共に、自ら考えることを促すものでした。また、当時は私のように「改革案」のもとに始まった新制度で入学した学生と、美大時代の旧制度で入学した学生が混在しており、ユニークで存在感のある先輩方からも多くの刺激を頂きました。学生としての濃密な6年間は瞬間に過ぎていきましたが、多感なこの時期の経験は間違いなくその後の歩みの礎となりました。

それから10年後、不思議な運命に導かれて私は教員として

京都芸大に戻ることになりましたが、それまで教職についたことがなかったせいか、着任当初は未経験の多種多様な業務に当惑することばかりでした。しかし教職員の皆様の御助力で少しずつ仕事を覚え、曲がりなりにも今日まで務めることができました。その間、学生達が粗削りながら初初しい瞠目させる何かを生み出す多くの現場に立ち合えたことは、この上ない大きな喜びでした。同時に、それは私にとっても自身の視野のさらに外側を探る掛け替えのない学びの場でした。

平凡な言い方になりますが、本学で勤務した30年はあっという間のようでもあり、とても長かったようにも感じられます。退任を迎え、これまでの様々な出来事の記憶が去来しますが、ひとつひとつの経験が私を育ててくれたことを噛み締めています。

これまで京都芸大で出会ったすべての皆様に心より感謝致します。



版画研究室 教授 出原 司



<版画について>

京都芸大の版画教室を一言で言いあらわすなら、近代版画から取り残された価値を見出す教室ではないでしょうか。古い版画を復興させると言った意味ではなく、「The Printmaking for the Rest of Us」ということです。いまや細分化され迷路のようになっている「版画」を異なる目線で再定義することで、ワクワクする経験ができる教室です。内側にいたのでは思いつけない版画を作ろうと言う教室と言っても良いでしょう。

近代版画は西洋の近代化からずいぶん遅れ1960年にウィーンでユネスコの世界造形者会議が開かれ、オリジナル版画規定なるものが採択されました。日く芸術版画には鉛筆でサインとエディションを明記すること、エディションは分数で表示すること、etc、etc。おかげで版画は絵画の複製をつくるお役目から解放されましたが、同時にこのルールの上で徐々に窮屈になってしまいました。この学校の版画教室の授業に出て一番感じたのはこのようなことに縛られない自由でした。

こんな自由さがそれぞれ小さな流派のようだった各大学の教室ごとの壁が取り払われ今では日本中の版画教室に広がっています。お互いに影響を受けあったり、同時多発的だったり、しかし同じ窮屈さをなんとかしようという同志がたくさん生まれました。この学校の後進の皆さんが彼らとともに新しい版画を作って行って欲しいと思います。

最後に、京都芸大の版画教室に今日まで関わってこれたことに感謝したいと思います。

退任記念展「かいじゅうVSかいじゅう」

2019年3月9日(土)～24日(日) <月曜休館>
11:00～19:00(最終入場は18:30まで)
京都市立芸術大学ギャラリー@KCUA

陶磁器研究室 特任教授 永樂 善五郎



この5年間、今まであまり会うことの無かった先生方と出会い、若い学生さん達との接触、どちらも共に大変興味深く楽しい思い出をいたしました。

5年前、私が京都芸大に呼ばれた時の理由として、変化していく時代の中に於いて「工芸とは何か?」、「やきものとは何か?」又、京都芸大の陶磁器専攻も富本先生が創立されて以来様々な時代の変化に合わせて変わってきました。しかし、その対応に追われ、新しい価値を生み出すことに追われ、京都の中にある芸術大学の一番身近にある「京焼」にも目を向ける必要があるのではないか、そうした意味合いから私を通して「京焼とは何か?」「色絵とは何か?」という事を学生に感じてもらおうという事が主旨にあったように覚えております。しかしながら、これは私から発する光が



あまりにも弱く、思うようにはいきませんでした。最後に1月の10日～31日まで芸術資料館陳列室にて退任記念展をさせていただきます。私の20代から今までの作品約25点を並べます。学生がこの展覧会を見て何かを感じとり、又、こうした焼物師もいるのだということを感じてくれればと思っています。最後になりますが、この5年任務の遂行としては不十分ながら私個人としては十分に楽しむ事が出来、又、意義のあった5年間であったと思っています。

デザイン科 教授 塚田 章



”無念”

象の会・いろあわせ

同窓生が同窓生を紹介し、リレーしていく近況報告のコーナーで、懐かしい人と出会う楽しみ、いつか自分に廻ってくるかも知れないドキドキ感のある連載です。

さかもと ゆい
阪本 結

2011 年油画専攻卒業、
2018 年絵画専攻（油画）修了

「近況」

私は学部卒業から5年経て大学院へ進学したので、2016年からの2年間は新しい出会いに恵まれました。崇仁地区の小学校で展示に参加したり、名古屋の若手作家の方々と交流が始まったりと、多くのご縁をいただく期間でもありました。修了後は、同じゼミだった友人と京都にスタジオを構えました。拠点が変わると考え方や作品の形態は変わるものだと、改めて実感しています。

昨年は京芸で非常勤講師の仕事を経験させていただき、現在は亀岡の「みずのき美術館」でアーカイブスタッフとして仕事をしながら作家活動をしています。アール・ブリュットの作品とその作者さんの人生やエピソードに触れる時間はとても刺激が強いです。また、福祉施設や支援の現場の中に「芸術・美術で福

- 前号(67号)で予告していました藤原信さんの紹介は、都合で次号(69号)に掲載します。

祉の現場に何をもたらすか」ということを考えておられる方が多いことに驚いています。福祉を取り巻く様々な芸術の取り組みに参加しながら、作家として自分はどうように社会と向き合っていくのか、と問われている気がしています。



次号に紹介される方は、
とうない さき
東内 咲貴さん
2017年(平29)油画専攻卒業です。

第5回芸大祭模擬店「象の店」繁盛記

2018年も母校・京都市立芸大の「芸大祭」が11月3日(土)～5日(月)の日程で開催されました。同窓会も5年目となる模擬店「象の店」《湯とうふと旨いお酒の店》をオープンし、同窓生と学生・教職員との交流の場として好評をいただきました。初日には同窓会長の上村先生に来店いただき、クラブのOB会や同窓会も開かれ、常連の方や初めて顔を見せて下さる方々が旧知のように盛り上がり、同窓会の面目躍如と言った雰囲気でした。

来年もぜひ「象の店」を開店したく思っていますが、学生が急性アルコール中毒で救急車のお世話になる事案が毎年発生し、遺憾ながら芸大祭が禁酒になる懸念もあります。その場合「象の店」をどう運営するのか？考えねばなりません。皆様方のお知恵をお貸しください。
(野崎、安井)

「象の店」決算報告 <同窓会負担金が年々減少し結構なことです>

収入：266,288円(売上金129,550 同窓会負担金136,738)

支出：266,288円(飲食材103,948 店分担当25,461 その他136,879)

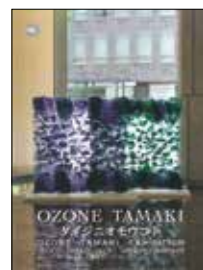
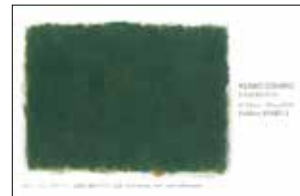


会員展覧会

(2018年1月～2019年1月) ■同窓会にお知らせいただいた展覧会情報です。同窓会のホームページにも掲載しています。

会員作品展		
1/10～14	「あわい Awa i」展 - Misa	'Galerie de L'open Bach' / フランス・パリ
1/20～25	金井良輔展 n.54 - 翅翼 -	TOR GALLERY
3/13～25	河合美和展	ギャラリー恵風
3/27～4/1	大志万 伸子展 - 油彩・パステル・墨彩 -	ギャラリーヒルゲート
3/26～4/1	小曾根環 展 - yuragi -	Oギャラリー
3/7～13	樋上さや子展 - 森と湖のファンタジー -	高島屋京都店 6階美術画廊
4/3～17	安藤ようこ個展 百のねことコラボレーション Vol.8 パラレルな世界	ギャラリーH2O
4/18～5/18	福本繁樹展 染め・布象嵌	中信美術館
4/19～29	安藤譲治個展 一枚の紙から生まれる動物達	ギャラリーH2O
5/12～20	荒瀬隆造 油彩画展	御池画廊
5/15～20	田中直子展	ギャラリーヒルゲート
5/22～27	重岡良子展 ～町家で遊ぶ～	アートスペース余花庵
5/29～6/4	大垣 早代子 洋画展 - 黄金テンペラの世界 -	札幌三越美術ギャラリー
5/29～6/3	吉田真紀子展	ギャラリー恵風
5/29～6/3	石田有作 白磁展	ギャラリーマロニエ
6/11～23	渡辺信明 展「花の糸」	ギャラリー白
6/19～24	第8回 畑 千秋 展	ギャラリーヒルゲート 1F
7/5～10	岡田親彦 ガラスとことば遊び展 生き物全て祖先は同じアミノ酸	大阪駅ビル前第4ビル 地下1階 展示会場
7/7～18	井上よう子展 一光はそこにー	ギャラリー島田B1F un
7/9～21	松本静明展	ギャラリー白
7/25～31	有賀麻理 風景画展	阪急うめだ本店 7階美術画廊
9/7～24	宮本佳美「消滅からの形成」	POLA MUSEUM ANNEX
9/11～17	重岡良子展～華の雫 Look back	京都文化博物館5階
9/24～29	大城国夫展	ギャラリー白3
9/24～29	善住芳枝展	ギャラリー白
9/25～30	松谷陽子展	法然院 講堂
9/29～10/10	河合美和展	ギャラリー島田
10/2～7	古川睦子展	ギャラリーモーツァルト
10/5～27	宮本佳美 消滅からの形成	imura art gallery
10/6～12/9	西田眞人 一の宮をえがく展 ～こころの旅第1章～	神戸ゆかりの美術館
10/9～14	高田泉「仏象画」展	堺町画廊
10/13～22	山口哲史 展 一沈黙ノ光ー	トロアード画廊
10/13～24	小曾根環展 ダイジニオモウコト	ギャラリー島田B1F un
10/13～25	上住雅恵展	ラズギャラリー
10/15～20	渡辺智子展「犬の眠り 其の二」	ギャラリー白
10/23～11/4	山本知佐 個展 -brain landscape-	Art Spot Korin
11/6～11	第八回 依田鏡子 日本画展 一こころのままにⅢー	ノリタケの森ギャラリー
11/13～18	<山>について 谷内春子個展	ギャラリー恵風
11/14～26	高田哲士展	こめかギャラリー
11/17～12/24	田中直子展	あうる京北(京都府立ゼミナールハウス)3階ロビー
11/20～12/2	長谷川睦展 照葉のかがみ	Gallery noivoi
11/20～25	山口哲史 展 一虚実の彼方へー	The Artcomplex Center of Tokyo アートコンプレックス・センター
2019/1/18～2/17	イメージを染める 中井真次の世界	染・清流館

会員グループ展		
1/7～13	第55回 大阪双線美術小品展	大阪現代画廊・現代クラフトギャラリー
1/16～21	京都市立芸術大学美術教育研究会 大阪支部有志	
1/30～2/4	第56回京都銅版画協会展 前川秀治 他	京都府立文化芸術会館1F 展示室
	会員作品展2018	ギャラリー中井
	京都府私立中学校・高等学校美術工芸教育研究会	
2/6～18	芥木佐知子、片山晋、菊池啓二、天坊早希、吉田孝光 他	ギャラリーCreate洛
2/27～3/4	創造する画家たち展 荒瀬隆造、高谷光雄 他	京都市美術館 別館2F
3/19～31	第42回 GOOD ART展 Let's ART 吉田 孝光 他	京都市美術館 別館2F
3/26～4/1	静物画 吉田真紀子 他	ギャラリー白
4/10～15	第31回京展 京都市立芸術大学美術学部同窓会展 同窓会会員有志	東京・京橋ギャラリーくばた
	第5回 ヌフ展 京都芸大 O B 仲間	京都府立文化芸術会館 2階展示室
	上山八洲子、サトーキミエ、東樋口美智子、古川睦子、宮島みどり、柳田輝子、山崎和代、	
	山本加代子、依田鏡子	
4/10～15	第42回Q人の作品展	京都府立文化芸術会館 1階展示室
4/23～29、5/29～6/3	宇井泰子、奥田正子、奥田 油、貴志早苗、永谷正二、吉田恵美子	
4/25～30	3rd Group 京 伊藤弘之、河合美和、小曾根環、城野愛子、善住芳枝 他	あかね画廊、GALLERY あじさい
5/3～4	二人展 一半世紀の軌跡ー 舞原克典 他	守山市民ホール
5/6～12	第31回KYOTO西山高原アトリエ村展	京都西山高原アトリエ村
5/16～6/14	落合峯子、角田哲郎、貴志カスケ、貴志早苗、久保良裕、斉藤均、柴田良三 他	ピアスギャラリー
5/24～6/3	gallerism 2018 in 中津 小曾根環 他	大阪市役所1階 玄関ホール 他
5/29～6/3	第4回 大阪御堂筋アート2018 小曾根環 他	GAKKERY & SPACE DELLA-PAACE
6/4～9	国松万琴・大住由季 展 -Tabikokoro-	西宮市立市民ギャラリー
6/19～24	G e 展 田中一好 他	ギャラリー白
	いきづく空間ーアーカイブ 長谷川睦 他	ノリタケの森ギャラリー
7/7～13	2018(第30回)花と土と人展	
7/7～22	京都芸大美術教育研究会東海支部会員 東海地区在住同窓生 他	ラブリールホール
7/16～22	奥河内Art 4 展 -小さな町から大きな発信- 児山より子 他	ギャラリー恵風
7/17～22	2018京都市立芸術大学美術教育研究会 京都支部会員	ギャラリーヒルゲート
7/21～8/1	いきづく空間 長谷川睦 他	ギャラリー島田
7/25～29	2018 京都銅版画協会 ミニアチュール展 前川秀治 他	守山市民ホール 展示室
7/28～8/7	ミニアチュール神戸展vol.18「ありがとがんとす」 小曾根環 他	ギャラリーえがく
7/31～8/5	2018滋賀双線美術展 京都市立芸術大学美術教育研究会 滋賀支部会員	ギャラリーかがわ
8/3～8	じゅうの箱 吉田孝光 他	南天荘画廊
8/4～9/30	第33回 反核・平和のための小品展 落合 峯子、荒瀬 隆造 他	三良保和美美術館
8/8～11	第30回 4 日展 京都市立芸術大学美術教育研究会 兵庫支部会員	岩手県宮古市立図書館 2F 展示室
9/3～15	32回 平和展 一平和を描く柿手春三と現代作家ー 荒瀬 隆造、道原 聡 他	ギャラリー白 3 ギャラリー白 kuro
	落合峯子「パステル画」菅野華翠「書」二人展 落合 峯子 他	
	Painterliness 2018	
9/12～16	河合美和、善住芳枝、中島一平、真木智子、渡辺信明 他	Oギャラリー
9/15～24	第7回21世紀関西女性絵画展 大山幸子 小曾根環 澤村はるな 城野愛子 砂	ギャラリーヒルゲート
9/17～22	押かほる 善住芳枝 鳥井雅子 萩由利絵 他	ギャラリー島田
9/24～30	丹波篠山・まちなみアートフェスティバル2018 河合美和 他	守山市民ホール 展示室
9/27～10/9	現象学的スケッチ展 大城国夫 他	ギャラリーえがく
10/31～11/7	第39回 風土展 藤田清照 他	ギャラリーかがわ
11/6～11	公募ー日本の絵画ー 受賞者セレクション 第3弾 林寿朗 他	南天荘画廊
11/13～12/15	第82回 新制作展 田中直子 他	三良保和美美術館
11/20～25	新制作関西絵画部会員展 田中直子 他	岩手県宮古市立図書館 2F 展示室
	THE ESSENCE 山下社 他	ギャラリー白 3 ギャラリー白 kuro
	第20回 丸池'69展	
	池田三郎、上田 彊、奥谷 澄、鎌田隆行、神野立生、	
	木村順子、塩山 強、高崎千歳、殿南直也、藤田一郎	
11/23～24	ひかりの広場 山下社 他	
12/10～20	PIAS GALLERY 2018 小曾根環 他	
2019/1/6～1/12	第56回 大阪双線美術小品展	兵庫県立美術館ギャラリー棟 3F ギャラリー
	京都市立芸術大学美術教育研究会 大阪支部有志	



学内消息（資料）

（2018年1月～12月）

1月13日～	1月14日	2018年度大学入試センター試験
1月13日～	2月12日	2017年度申請展「思考する技術」（京都市立芸術大学ギャラリー@ KCUA）
1月13日		移転整備プレ事業 still moving 2017 スピンオフプログラム「壁塗りワークショップ」（元崇仁小学校）
2月 7日～	2月11日	京都芸大「今熊野・岡崎学舎」井上隆雄写真展（元崇仁小学校）
2月 7日～	2月11日	2017年度作品展（京都市美術館別館・本学構内・元崇仁小学校）
2月 7日～	2月11日	博士有志展「INTERIM SHOW 2018」（大学構内）
2月17日～	3月 4日	同窓会展 「部屋と宇宙と眠らない夜——1990年代前半を中心に」（京都市立芸術大学ギャラリー@ KCUA）
2月17日～	3月 4日	状況のアーキテクチャー 2017 プロジェクト1「物質+感覚民族誌」成果発表展 「移動する物質——十字路としてのアフガニスタン」（京都市立芸術大学ギャラリー@ KCUA）
2月21日～	2月23日	京都芸大「境谷小学校レジデンス」平成29年度京都市立境谷小学校 作品展（京都市立境谷小学校）
2月25日～	2月26日	2018年度美術学部入学試験
3月 1日～	4月22日	Memory Bank Project #02 BANK-- 映画「東九条」でつなぐことー（柳原銀行記念資料館）
3月 3日～		2018年度大学院美術研究科博士（後期）課程入学試験
3月 7日		2018年度美術学部・大学院美術研究科博士（後期）課程合格発表
3月10日～	3月25日	藤原隆男教授退任記念展「ほしをみるひと」（京都市立芸術大学ギャラリー@ KCUA）
3月10日～	3月25日	Colors of KCUA 2017 京都市立芸術大学 芸術学研究室による選抜展「間間」（The Terminal KYOTO）
3月10日～	3月25日	移転整備プレ事業 教室のフィロソフィー Vol. 01 雑賀通浩 個展 ～毎日が良い日々 クジラのように深く呼吸する～（元崇仁小学校）
3月23日		2017年度卒業式・学位授与式
3月31日		藤原隆男教授、西田真人教授退任
4月 1日		磯部洋明准教授、奥田美佳准教授着任
4月 1日～2019年1月		2018年度ロイヤル・カレッジ・オブ・アート（イギリス）、国立高等美術学校（フランス）、国立高等装飾美術学校（フランス）、ミラノ工科大学（イタリア）、アールト大学（フィンランド）、韓国総合芸術学校（韓国）、中央美術学院（中国）交換留学生派遣及び受け入れ
4月 7日～	5月20日	京芸 transmit program 2018（京都市立芸術大学ギャラリー@ KCUA）
4月10日		2018年度入学式
4月11日～	5月13日	芸術資料館収蔵品展 第1期「明治150年記念展 画学生のまなざし - 京都市動物園との出会い」（芸術資料館）（京都市動物園）
4月28日～	5月13日	移転整備プレ事業 教室のフィロソフィー Vol. 02 河野愛 個展「in the nursery 逸話ではないもの」（元崇仁小学校）
5月10日		ビョートル・グジパチュ氏・ミハウ・カチンス氏による特別授業「現代美術における女性性と自己（セルフ）- ポーランド美術を中心に -」（大学会館交流室）
5月19日～	6月24日	芸術資料館収蔵品展 第2期「新収蔵品展 2017-2018」（芸術資料館）
5月24日～	5月27日	第64回五芸芸術大学体育・文化交歓会（五芸祭）（愛知県立芸術大学）
6月 2日～	6月17日	移転整備プレ事業 教室のフィロソフィー Vol. 03 九鬼みずほ 個展「野焼土器 Open Burning Earthenware」（元崇仁小学校）
6月 2日～	7月 8日	im/pulse：脈動する映像（京都市立芸術大学ギャラリー@ KCUA）
6月11日～平成31年夏		「京の七夕」学生アート作品展 「二条城の七夕」デザイン科2回生の学生の作品を展示（地下鉄二条城前駅）
6月15日		ヴィンセント・ムーン氏による特別授業「レクチャー&パシエ音響彫刻とのパフォーマンス」（大学会館 ホール）
6月30日～	8月 5日	芸術資料館収蔵品展 第3期「山口華楊 生命の美を写す - 平成29年度新収蔵品おひろめ展 -」（芸術資料館）
7月1日		創立記念日
7月 7日～	7月 8日	京芸 transmit program 2018: ART OSAKA version（ホテルグランヴィア大阪）
7月21日～	8月19日	明治150年・京都のキセキ・プロジェクト／芸術資料館収蔵品活用展 田村友一郎「叫び声 / Hell Scream」（京都市立芸術大学ギャラリー@ KCUA）
7月26日～	7月29日	2018年度京都市立芸術大学 総合基礎実技展「そうきそ展」（大学構内）
8月 5日		美術学部オープンキャンパス（本学構内）
8月 6日～	8月12日	サマーアーツスクール（大学構内）
8月25日～	9月 2日	2018年度学内申請展「つながる糸 ひろがる布 - 三大学染織専攻学生選抜展 -」（京都市立芸術大学ギャラリー@ KCUA）
8月25日～	9月 2日	2018年度申請展 大谷史乃・長町那美・前田菜月「人工品」（京都市立芸術大学ギャラリー@ KCUA）
9月15日～	9月30日	移転整備プレ事業教室のフィロソフィー Vol. 04 山西杏奈 個展「あわいのかたち」（元崇仁小学校）
9月15日～10月28日		クリスチャン・ヤンコフスキー「Floating World」（京都市立芸術大学ギャラリー@ KCUA）
9月18日～10月21日		芸術資料館収蔵品展第4期「京の絵手本 - 写生と運筆」（芸術資料館）
9月29日～12月23日		川デツナガル 自然とアートのまちづくり（元崇仁小学校）
10月 6日～10月21日		移転整備プレ事業 教室のフィロソフィー Vol. 05 中尾美園 個展「あすの不在に備えて」（元崇仁小学校）
10月10日		高田ケラー有子氏による特別授業「北欧 デンマークから」（新研究棟 大会議室）
10月28日		サマーアーツスクール「中高生に向けたデザイン基礎講座」（大学構内）
10月27日～12月 2日		芸術資料館収蔵品展第5期「還る学舎 画学校から芸大まで」（御苑・吉田・今熊野・杏掛）（芸術資料館）
11月 3日～11月 5日		京都市立芸術大学芸大祭 2018
11月 3日～11月18日		移転整備プレ事業 教室のフィロソフィー Vol. 06 安枝知美 個展
11月10日～11月25日		秋山陽教授退任記念展「はじめに土ありき」（京都市立芸術大学ギャラリー@ KCUA）
11月11日～11月16日		2019年度大学院美術研究科修士課程入学試験
11月22日		2019年度大学院美術研究科修士課程合格発表
11月29日～12月 9日		第29回留学生展（京都市立芸術大学ギャラリー@ KCUA）
11月29日～12月 9日		2018年度学内申請展「いわゆるかまがさき - 所謂釜ヶ崎 -」（京都市立芸術大学ギャラリー@ KCUA）
12月 8日		状況のアーキテクチャー パフォーマンス公演（Good Job! センター香芝）
12月15日～12月24日		2018年度申請展「Partition——パーティション」（京都市立芸術大学ギャラリー@ KCUA）
12月15日～12月24日		2018年度申請展 松井沙都子「モデルハウス」（京都市立芸術大学ギャラリー@ KCUA）
12月22日～12月23日		THE GIFT BOX 2018 アーティストが提案する特別なギフト（京都文化博物館別館ホール）

事務局だより

- 同窓会が後援していたチャリティ展<サイレントアクト>。今年度は休止となっていました。昨年12月に「実行委員会」から、継続していくことが困難になったため終了するとの連絡がありました。惜しまれますが、関係者の今までのご苦勞に敬意を表します。
- 芸大正門の東側、駐車場の西端に誰知られることなく、**石碑と一本の樹の木**が植わっています。これは先の戦争で学徒として徴兵され、散った諸先輩を慰霊するために同窓生有志が植樹されたものです。この度の大学移転に際し、同窓会ではこの慰霊樹も一緒に移植するよう大学にお願いしたところ、移植することになったとの報告を受けました。大学の配慮に感謝しお礼申し上げます。
- 事務局体制強化のため昨年の役員会で承認いただきました非常

勤事務局員1名採用について、昨年10月から週1～2日ほど藤井雅子さんに出勤していただいています。

- 2020年度に「**同窓生名簿2020**」を発行します。今年から編集委員会を立ち上げ準備に取り掛かる予定です。同窓生各位にいろいろお願いすることがあると存じますが、協力方よろしく願います。
- 2020年度に開催する「**同窓会アートフェア**」の準備会を、昨年末に開催しました。本フェアは、大学移転を支援するチャリティとして2015年度に続く2回目の開催になります。来年度には実行委員会を立ち上げ具体案をお示ししたいと思います。
- 次期「**役員会**」を2019年7月7日(日)15時～、「からすま京都ホテル」で開催する予定です。役員/幹事の皆様にはご予定くださいますようお願い申し上げます。

同窓会関係者や同窓生を名乗って、個人情報を出したり、物を売りつける事例がありますのでご注意ください

同窓会からの案内は、同窓会の所在地(大学内に設置)や電話番号が正しいことを必ず確認して対応ください。不審な点があれば同窓会へ電話ですぐに問い合わせして下さい。

「同窓生名簿 2015」の頒布について

2015年7月発行の「同窓生名簿2015」はまだ在庫があります。ご希望の方は、代金3,500円(送料込)をご送金下さい。折り返し送付いたします。ただし、同窓生一人1冊を原則としていますので既に2015年版名簿を購入された方は購入できません。

振込先：郵便局に備え付けの振替用紙(青色)を使って送金下さい。
口座番号：01030-7-12844
加入者名：京都市立芸術大学同窓会
通信欄：同窓生名簿2015購入と記載の上、氏名、卒業年、専攻、住所(送付先)、電話番号をご記入下さい。

▶次の場合は、事務局までご連絡ください

●同窓会後援名義使用

同窓会会費を納入されている会員が主宰する作品展など(個展、グループ展)で同窓会の後援名義使用を希望される方。

●展覧会の案内、情報をお寄せください

同窓会へ送っていただいた展覧会の案内や情報は、同窓会ホームページや会報に掲載しています。

●満80歳以上の会員で会費免除を希望される方はご連絡ください

過去10年間同窓会会費を継続して納入いただいていた満80歳以上の会員で、希望される方は年会費を免除できます。

●氏名、住所、電話、FAXなどを変更された時

お忘れになると会報などの情報をお届けできなくなりますので郵便、FAX、メールなどの方法でご連絡ください。同窓会ホームページの住所変更フォームからも変更できます。

同窓会会費の納入をお願いします

会報封筒に郵便振替用紙(赤色)が同封されている方は、近年の会費が未納になっていますので、お支払いくださいますようお願いいたします。会費は年額千円です。終身会費納入制度もありますので、ご希望の方は終身会費の金額などを同窓会事務局へお問い合わせください。(既納会費によって終身会費が異なります)

編集後記

- 穏やかに新年を迎えた矢先の3日、熊本県は地震での幕開けとなりました。平成も残すところ3ヶ月余りとなりましたが、この30年を振り返りますと様々な出来事や事件が起り、激動の時代となりました。また、昨年は地球規模で地球環境の変化が大きく影響されるとする自然災害が多発し、大きな爪痕を残しました。新元号を掲げるこれからの新しい未来は、果たしてどのような月日となるのでしょうか。より良いものとなって欲しいものです。
- 同窓会は今年、事務局機能を強化し、さまざまな活動に取り組んでいきたいと考えています。大学創立140周年記念と

して開催が予定されている新規事業「京都芸大同窓会アートフェア」の開催や「同窓会名簿2020」の発行に向けた準備会を立ち上げ、今年度は大学側も含めた実行委員会としてスタートさせる計画です。

- 今年も同窓会、同窓生と大学が連携することで、真の同窓会のために機能を果たす『象の会』となり、会員の皆様の一層のお力添えをいただきながら、ますます発展していきますことを願っております。どうぞ宜しくお願い申し上げます。

(会報編集委員長：阿部 緑)